

救急の現場はここ数年で変わってきました。出場件数の急増、救急救命士の適用、救急ヘリ・高性能車両の導入……
現場で働く隊員に、今の管内の状況と、遅れをみせる日本人の救急処置への認識について伺いました。



1分1秒を争う命を運ぶ救急車。

阿蘇広域行政事務組合消防本部は地域の信頼を一身に受け24時間稼働し続けています。



救急救命士 藤本裕司さん

10年間で管内の出場内容が変わってきた背景

平成16年中の管内(西原村を除く阿蘇郡11カ町村)の救急出場件数は2,684件で、事故種別で見ると急病が最も多く1,390件、転院搬送417件、交通378件、一般負傷347件、前記以外のものが132件となっています。10年前と比較すると、出場件数は1,040件も増加しています。この10年間で出場件数が増加した背景には、いくつかの原因があると思われる。

- (1)高齢者の増加
管内は一人暮らしの方が多く、現代社会に対するストレスも原因に考えられます。
- (2)日常生活に密着した行政サービスと住民の期待
「何かあったら救急車を」「救急車を呼べば安心」という住民の期待とニーズが大きく感じられます。
- (3)救急医療の高度化
救急救命士講習を受け国家資格を有するが配属されて、より高度な救急業務を展開するようになりました。搬送される医療機関との連携も、大きく改善されてきました(医師や看護師との連携を図るため、フォーラムや症例検討を実施しています)。

(4)救急ヘリコプターについて
熊本県防災消防ヘリが平成13年から運用開始して以来、当消防本部の昨年のヘリ搬送件数は41件にのぼっています。県下でも一番の利用実績を上げており、山岳救助や水難事故、交通事故、転院搬送など幅広く有効活用しています。特に、阿蘇山岳の滑落事故などは数時間の救助活動を要していましたが、ヘリ運用により短時間の救助救出が完了し、熊本市なら10分程度で到着します。

生命にかかわるような病態の方には、専門的な治療を提供するためには、それ相応の体制が整った医療機関に搬送する必要があります。極めて時間との勝負でもあります。助かるはずの命を助けるために、ヘリは有効な搬送手段です。

主なヘリポートは「あびか」グラウンド、一の宮運動公園です。

今後の取り組み

当消防本部では、管内5署・所4台を配備し、12名の救急救命士が活動していますが、阿蘇地域は広範なエリアを管轄していますので、救急車が現場に到着するまでに、平均で10分を要しています。救命率を向上させるためには、スムーズな救命のリレーが必要で、患者さんのそばにいる方が第1当者です。「第1当者が必要な手当をして、バトンを救急車に引き継ぐまで頑張っていたら、それを医療機関につなぐまで、救急隊が頑張る」という流れが大切というわけです。

生命にかかわるような病態の方にとつて、その場に居合わせた方(バイスタンダー)の応急手当が、その患者さんの予後に大きくかかわってきます。

「救命講習」を行います、お申し込みください!

消防本部では、応急手当の普及啓発活動を積極的に推進しています。

普通救命講習(3時間)・上級救命講習(8時間)・一般講習は、住民からの要望があれば、いつでもどこでも何時からでも実施しています。詳しいことは、消防本部(34・0024)へお尋ね下さい。

安易な救急要請は慎んでいただきますようお願いいたします

救急車を要請するための基準は、「生命身体に緊急性があり、他に搬送する手段がないこと」となっています。重篤な患者さんの対応が遅れる場合がありますので安易な救急車要請は慎んでいただきますようお願いいたします。